

Build Live Japan 2015 募集要項 B –Build Live–

2015 年 5 月

競技方式概要

インターネットを活用し 3 次元設計 BIM (Building Information Modeling) を活用した設計プロセスを一般に公開しながら進める競技会です。

1. 競技への参加要件

Build Live では、各種のデータ提供、提出をインターネット経由で行います。高速のインターネット接続が必要です。作品提出に必要な上り側の速度(数 Mbps 程度以上は必要でしょう。ADSL 等は下りよりも上りの速度が遅いです。ご注意ください) を確保してください。
なお、インターネット通信にかかる費用は全て応募者負担とします。

2. SNS のアカウント作成

応募者は問い合わせや情報共有のために Facebook の「Facebook 応募者グループ」に参加し活用しますので、Facebook にアカウントを作成してください。

・ Facebook 応募者グループ : <https://www.facebook.com/groups/blj2015party/>

3. アピールサイトの作成と投稿内容

応募者は、Blog、SNS 等によるアピールサイトを設け、自己アピールを投稿してください。投稿されたコンテンツは審査に使用しますので、アピールサイトのアクセス先を事前にお知らせください。

この投稿は重要です。 審査の際、この投稿から応募者の取り組みの様子を把握しますのでアピールしたい内容をわかりやすい表現で投稿してください。また、BLJ2015 終了後も主催者等がコンテンツを確認する場合がありますから、2016 年 3 月末までを目処にコンテンツを保全しておいてください。

アピールには次の内容を含む投稿をしてください。

- ・データの説明：データ共有サーバへアップロードした中間データ（例えば第 1 案でシミュレーションをした結果第 2 案で修正をするときの第 1 案時点のデータが該当します。）、最終作品（成果物）などの説明。第 3 者が検証可能となるようにしてください（とりわけ、住民が観戦される BLJ2015 では、データの説明が不親切だと作品を見て頂けないリスクが生じますのでご注意ください)
- ・課題に対する提案内容：条件の読み解き、アイデア、代替案、設計のポイントなど

- ・ BIM への取り組み：ポイントとなった議論や判断、判断に使われたデータとその説明、データの受け渡しの状況、アイデア、作業の様子など

4. 提出物と提出方法

- ・ 応募者は BLJ2015 で予定している BIM への取り組み内容を示す「BIM 計画書」を別途指示する期日までに指定の方法で提出してください。BIM 計画書は、ひな形を提供しますので必要事項を記載し提出してください
- ・ 検証可能な中間データを適時にデータ共有サーバにアップロードしてください。
- ・ 最終作品（成果物）として、室の自動集計を可能とする所定の情報を付加した IFC ファイルを、データ共有サーバにアップロードしてください。このデータが完成したら随時「ゴール宣言」をしてください。
- ・ ゴール宣言後は全ての審査が終了するまでは当該 IFC モデルの修正は禁止されます。ゴール宣言後、第 1 から第 3 ゴールまでのうち直近のゴール時刻（各日 13 時）以降、現地において住民への提示をする予定です。
- ・ 第 1 から第 3 のどのゴールを選択するかは事前に決定する必要はありません。BLJ2015 開始後の設計の進捗状況を見て柔軟にゴールを選択してください。
- ・ データ共有サーバにアップロードされた提出作品は、一定の期間（2015/12 まで）観戦者に向けて公開されるとともに、杵築市に提供されます。希望する応募者には、審査後に提出作品の IFC モデルの修正をする機会が付与されます。
- ・ 自己アピールは、競技開催期間中に Blog 等への掲載や SNS への投稿で発信してください。必須です。昨年の BLJ2014 応募者のアピールサイトが公開されていますので、参考にしてください。
- ・ 後からプロセスを確認するために必要となるファイルをデータ共有サーバへアップロードしてください。アップロードするファイルの例は次のとおり。
 - ① データ交換したファイル
 - ② 判断の元となったデータのファイルなどとその説明資料
 - ③ 完成作品と説明資料
 - ④ 住民プレゼンテーション用画像・映像等（1 分以下で視聴可能なもの）
 - ⑤ 建設費・維持運営費の概算書（任意提出。提出されると地域賞の審査対象になる可能性が高まります（次項参照）。計算根拠がわかり単価の入れ替え等で将来使用可能なもの。）

5. 地域賞の審査（8作品程度への絞り込み）

- ・地域（杵築市、まちづくり協議会及び住民）による審査を経て、杵築大賞1本、杵築賞2本、計3本を決定します。
- ・BLJ2015の経過は住民によってインターネットで観戦されるほか、提出（ゴール宣言）された作品は、現地の当該敷地近辺で住民にプレゼンテーションし、感想を聞く予定です。早めのゴールを選択した応募者は、それだけ作品が住民から見られる日数が増えます。逆に遅いゴールでじっくり「大器晩成」を狙うのも一つの作戦です。
- ・地域賞の審査対象となる作品は、作品数が多い場合、多いことによって住民の評価が難しいことがありますので、次の手順で8作品程度に絞り込むことを想定しています。
 - ① 作品のうち「建設費（イニシャルコスト）」「維持運営費（ランニングコスト）」の両方がある提案から6作品までを選定（多い場合は抽選）。ここで選定された数が5作品以下なら②へ6作品なら③へ
 - ② 作品のうち「建設費（イニシャルコスト）」がある提案から①とあわせて6作品までを選定。③へ
 - ③ ②までの段階で選定されていない全作品（建設費等がなくてもよい）の中から地域が2作品以上を選定し、合計8作品とする
- ・上記③までで選定された8作品はBLJ2015終了後も、審査の一環として、再度住民へのプレゼンテーションを経て地域賞3本の決定に進みます。
- ・住民プレゼンテーション対象の8作品に選定されなかった場合でも、住民による評価が前提でない各賞を受賞することはできる（地域賞の対象から外れるのみ）点に、ご注意ください。
- ・どの作品が地域賞かは結果発表までは非公開ですが、最優秀賞等の審査（次項）のため、審査会のみには通知されます。

6. 審査

- ・設計プロセスの審査：応募者がBlogやSNSに投稿する取り組みの様子を確認しながら、プロセスの評価を行います。ここでは主に主催者によって、技術的な取り組みに対する評価を行います。
- ・審査会：審査員の視点から評価を行います。これまでのBuild Liveでは、提出作品の動向を踏まえながら、BIMの特性を活かした作品をより高く評価してきました。審査会では、応募者に説明を依頼する場合があります。方法は別途指示します（審査会場への出席、TV会議などを想定）。

審査員は次の方々です。

- 松家克氏 建築家/ARX 建築研究所 代表 (武蔵野美術大学 理事)
渡辺仁史氏 早稲田大学 創造理工学部 建築学科 教授
池田靖史氏 建築家/慶應義塾大学大学院 SFC 政策・メディア研究科 教授 (IKDS 代表)
山梨知彦氏 建築家/日建設計 執行役員 設計部門副統括 設計グループ代表
豊田啓介氏 建築家/ノイズパートナー
杵築市代表 (1名程度)

・観戦者、応募者投票：観戦者・応募者による投票を行います。

7. 賞

主催者および審査員、協賛企業による審査を行い、応募者の中から以下の賞を授与します。

① 審査員賞として最優秀賞(※)、優秀賞など

※：「最優秀賞」は②の地域賞の受賞作品3本の中から受賞する可能性が高いです。

② 地域賞 (杵築大賞1本、杵築賞2本、計3本)

③ 技術賞としてアワード

④ 協賛企業の冠賞

8. 提供サービス

主催者は、応募者にBIMプロセスを体感いただけるよう、協賛企業から提供されたサービスやソフトウェアなどを提供します。詳細は別途お知らせします。

-以上